

文化財の資料学的研究 (①企02-13-3/5)

目 的

本研究は、日本を含む東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが複雑に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみの解明を行うことを目的とする。その研究にあたっては、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら、調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤の整備と確立を目指すとともに、これに立脚した、国内外の研究交流を推進する。

成 果

1. 調査

東京文化財研究所が所蔵する7400件の黒田清輝に宛てた書簡を目録と突き合わせ、内容検索に資することを念頭に入れて各書簡に何が書いてあるかの事項を充実させた。あわせて、特定の差出人（黒田清綱、小川一真）からの書簡を網羅的に集め、書簡の正確な翻刻を順次行うとともに、翻刻分には解題を付すように努めた。

2. 美術史研究のためのコンテンツの形成

14世紀在銘彫刻作品年表（棒目録）の作成

中世絵巻詞書文字総覧のためのデータ入力

東京文化財研究所が所蔵する今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注

3. 研究交流促進のための研究会の開催

- ・2013（平成25）年9月24日 植野健造氏（福岡大学教授）の招聘・企画情報部研究会「新出資料紹介『第八回白馬会展覧会出品目録』」
- ・2013（平成25）年10月4日 鄭于澤氏（韓国東国大学校教授・同大学校博物館館長の招聘・研究講演「高麗仏画の表現—凝縮された美—」
- ・2013（平成25）年11月26日 染谷香理氏（東京藝術大学大学院）の招聘・企画情報部研究会発表「版本・桓齋著『画傳幼学繪具彩色獨稽古』及び、写本『彩色童諭』について」
- ・2013（平成25）年12月6日 佐藤全敏氏（信州大学准教授）の招聘・企画情報部研究会発表「観心寺如意輪観音像再考」

論文

- ・綿田稔「研究資料 国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻—解題」『美術研究』410号 pp.55-65 13.9
- ・綿田稔「研究資料 国立ギメ東洋美術館蔵 大政威徳天縁起絵巻—詞書公刊・影印（上・中・下）」『美術研究』410～412号 pp.66-87、pp.39-57、pp.39-57 13.9～14.3
- ・田中淳「研究資料 黒田清輝宛小川一真書簡の翻刻と黒田清輝の写真観」『美術研究』412号 pp.60-70 14.3

研究組織

○津田徹英、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、綿田稔、小林公治、塩谷純、小林達朗、皿井舞（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）、中野照男、吉田千鶴子、三上豊（以上、客員研究員）